菊島・櫻井(2024). 容装心理学研究, 3(1), 1-7.

[原著]

マスクの種類と着用方法が人物写真の魅力評価に及ぼす影響 [1]

菊島正浩 開智国際大学・櫻井毬萌 国際医療福祉大学大学院

Effects of mask type and wearing style on attractiveness evaluation of portrait photographs

Masahiro KIKUSHIMA (Kaichi International University)
and Marimo SAKURAI (International University of Health and Welfare Graduate School)

This study examined the effects of different types of surgical masks and the style of wearing the masks on the wearers' attractiveness evaluations. In Experiment 1, undergraduates (n = 63) evaluated the attractiveness of four peoples' photographs wearing three types of surgical masks; pleated surgical masks, planar-shaped masks (similar to those distributed by the Japanese government), and three-dimensional masks. The results indicated that the planar-shaped surgical masks were rated less attractive than pleated or three-dimensional masks. Experiment 2 examined the effects of the mask-wearing style. Undergraduates (n = 20) evaluated the attractiveness of three photographs of two people wearing a pleated surgical mask pulled down to expose the nasal dorsum, the mask pulled down further to reveal the nose fully, or the mask appropriately worn with the nose wholly covered. The results indicated that the higher the nose exposure, the lower the attractiveness rating.

Keywords: type of face mask, wearing style, attractiveness evaluation, COVID-19

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって多くの人々が外出時にマスクを着用するようになったが，マスクの着用が外見的魅力に影響を及ぼすことはCOVID-19の流行以前より報告されてきた。たとえば Miyazaki & Kawahara（2016）は，顔の部分的遮蔽が（美点も欠点も隠すことによって）外見的魅力を平均化し，不健康と結びついた衛生マスクの着用が外見的魅力を低下させる Sanitary-Mask Effect を報告している。また，着用するマスクの色が魅力の評価に及ぼす影響についても検討が行われており，伊藤・河原（2019）は，外見的魅力の高い男性が白いマスクを着用した画像の魅力が黒いマスクを着用した画像よりも高く評価されることを報告している。

ところで，Olivera-La Rosa et al.（2020）は，COVID-19 の流行によってマスクを着用することで自分や他人を感染から守るという新たな社会規範が生まれたことに言及し，マスク着用者はこの新しい社会規範をより真剣に受け止めているため，より責任感が強いと判断される可能性を指摘している。彼らは，同一人物がマスクを着用した写真と着用していない写真のそれぞれについて，「この人が…だったら心地よいと感じるだろう」という文章を完成させる記述として最も適切なものを「恋人」や「級友」などの中から選択させることによって「望ましい社会的距離（desired social distance）」を測定し，その人物がどの程度信頼できると思われるかを尋ねた。その結果，マスクを着用した人物はマスクを着用していない人物よりも（適切な社会的距離という点から）より望ましく，信頼できると評価されることが示された。また，Hies & Lewis（2022）は，同一人物がサージカルマスクを着用した写真，布マスクを着用した写真，顔の下半分をノートで遮蔽した写真，マスクを着用せず遮蔽もない写真のそれぞれについて顔の魅力を評価させ，サージカルマスク着用写真の魅力は他の3種よりも高く，布マスク着用写真の魅力もマスクを着用せず遮蔽もない写真より高いことを報告している。

このように，COVID-19 の流行以降はマスク

1 本論文は，第2著者が2021年度に開智国際大学国際教養学部に提出した卒業論文のデータを再分析し，加筆・修正したものである。

Corresponding author: Masahiro Kikushima（E-mail: masahiro.kikushima[at]kaichi.ac.jp）

の着用が肯定的に捉えられ，マスクの着用が着用者の魅力を高めることが報告されるようになった。また，マスクの着用が魅力の評価に影響を及ぼす条件についても，さまざまな検討が行われるようになった。たとえば Dudarev et al.(2022)は，マスク着用者と評価者の人種が同じ場合にはマスクの着用は魅力評価を高める一方で，人種が異なる場合には魅力評価を低めることを報告している。また，COVID-19 の流行以前と同様に，外見的魅力の高い男性が白いマスクを着用した画像の魅力は，黒いマスクを着用した画像よりも高く評価されることが報告されている(鎌谷他, 2021)。

本研究の目的

マスクの着用が顔の魅力に及ぼす影響についてはこれまでにも報告がなされているものの，特に COVID-19 の流行以降はマスクの色や形，素材が多様化しており，マスクの有する具体的な特徴と魅力との関係についてはいまだ不明な点が多い。マスクの有するどのような特徴が着用者の魅力に影響を及ぼすのかを明らかにすることは，顔の魅力の知覚に影響を及ぼす諸要因の解明に寄与すると考えられる。また，着用者をより魅力的に見せるマスクの開発や選択に際しても有用な知見をもたらすであろう。そこで実験 1 では，着用したマスクの有する特徴が人物写真の魅力評価に及ぼす影響について検討を行う。具体的には，外見的特徴の異なる不織布製サージカルマスク，日本国政府が各家庭に配布した布製平型マスクの同等品[2)]，ナイロン・ポリウレタン製立体マスクの 3 種を着用した人物写真に対する魅力評価の比較を行う。

また，COVID-19 の流行以降はただマスクを着用するだけでは十分でなく，感染拡大防止の観点から適切な方法による着用が求められるようになった。たとえば鼻を露出した状態でのマスク着用は「鼻出しマスク」と呼ばれ，たとえマスクを着用していたとしても感染拡大防止上不適切であるとみなされるようになった(たとえば，首相官邸, 2022)。こうした不適切な方法によるマスクの着用は COVID-19 の流行下で共有されるようになった新たな社会的ルールやマナーに反する行動であるといえよう。Olivera-La Rosa et al.(2020)も指摘しているように，自分や他人を感染から守るという新たな社会規範を真剣に受け止めていない人物は責任感が低いと判断されるため，不適切な方法によるマスクの着用は外見的魅力を低下させる可能性がある。そこで実験 2 では，マスクの着用方法が人物写真の魅力評価に及ぼす影響について検討を行う。具体的には，実験 1 と同様の不織布性サージカルマスクを使用して，マスクを引き下げて着用して鼻背を露出させた人物写真，さらに引き下げて鼻を完全に露出させた人物写真，鼻全体を覆うよう適切に着用した人物写真の 3 種に対する魅力評価の比較を行う。

Figure 1　人物写真の例（実験 1，人物 B）

実　験　1

方法

参加者　大学生 63 名(男性 31 名, 女性 32 名)が参加した。平均年齢は 19.59 歳(SD = 1.63)であった。

実施時期　2021 年 7 月に実施した。

マスク　不織布製サージカルマスク(17.5cm×9cm)，布製平型マスク(13.5cm×9.5cm)，ナイロン・ポリウレタン製立体マスク(23cm×15cm)の 3 種を使用した。色はすべて白色であった。

人物写真　4 名の人物(21―25 歳の男女各 2 名)が 3 種のマスクを着用した写真を撮影し，それらを水平に配置して刺激セットを作成した(Figure 1)。全員が黒髪で，白色無地の襟付シャツを第 1 ボタンのみ外して着用した。背景はすべて白色無地であった。

実験計画　刺激人物の影響を取り除いたうえでマスクの種類の効果について検討するため，人物を要因として組み込むこととし，独立変数に加えた。したがって，刺激人物(A・B・C・D)とマスクの種類(不織布製サージカルマスク，布製平型マスク，ナイロン・ポリウレタン製立体マスク)を独立変数とする 2 要因計画で

あった。独立変数は，いずれも参加者内要因であった。

質問冊子　フェイスシートでは，本実験で使用する 3 種のマスクの中から参加者自身が最もよく使うものを 1 つだけ選択させた。次ページ以降は，1 ページにつき 1 人物分の評価を記入する構成であった。すなわち，各ページに 3 つの視覚的アナログスケールを水平に配置し，それらに 3 種のマスクを着用した写真それぞれの魅力評価を記入させた。各視覚的アナログスケールの水平線は両端と中央で垂直線と交差し，それら 3 点には「0」「50」「100」の値を付した。

手続き　実験は授業の一部を利用して集団で実施した。まず教室の大型スクリーン上に人物写真で使用した 3 種のマスクの写真を「サージカルマスク」「平型マスク」「立体マスク」のキャプションを添えて水平に並べて呈示した。また，これらの文字が読みにくい場合には，実験終了までの間，座席を移動するよう参加者に依頼した。次に，質問冊子のフェイスシートへの記入を求めた。続いて，これから呈示される人物写真を見て感じた魅力を 0 から 100 の範囲で評価して，質問冊子の視覚的アナログスケール上で該当する位置に縦線を記入するよう教示した。その際，スクリーンには視覚的アナログスケールの例を呈示しながら回答方法の説明を行った。また，各刺激セットは 30 秒ずつ呈示されることを説明し，それぞれが呈示されている間に評価を行うよう求めた。刺激呈示順序はすべての参加者で同一であった。

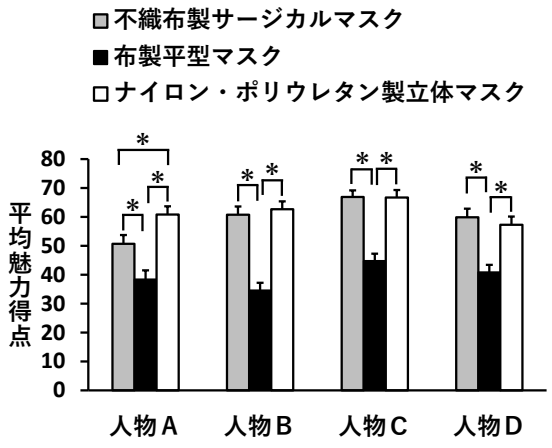
結果と考察

マスクの着用と外見的魅力の関係が文化により異なる可能性を考慮し，回答に不備のあった 2 名を含む留学生 5 名の回答を分析から除外した。その結果, 分析対象者は 58 名（男性 29 名, 女性 29 名），平均年齢は 19.29 歳（SD = 1.23）となった。

参加者が最もよく使うマスクとして最も多く選択されたのは不織布製サージカルマスクであり（63%），次いでナイロン・ポリウレタン製立体マスク（32%），布製平型マスク（5%）の順であった。

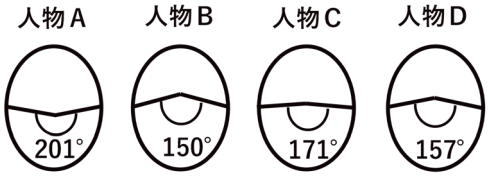
人物写真の魅力評価　視覚的アナログスケール上に記入された縦線を実測し，最小値（0mm）を 0, 最大値（48mm）を 100 として得点化を行った。着用人物および着用マスクの種類ごとの魅力得点を Figure 2 に示す。人物および着用マスクの種類によって魅力得点に差があるかどうかを二元配置分散分析により検討した（球面性の仮定が成立しない場合は，Greenhouse-Geisser の ε により自由度の修正を行った。また，多重比較には Bonferroni の方法を用いた）。その結果，人物の主効果（F（2.514, 143.302）= 10.310, p < .001，η^2_p = 0.153），マスクの種類の主効果（F（2, 114）= 64.340, p < .001, η^2_p = 0.530）, 人物×マスクの種類の交互作用（F（4.000, 227.989）= 4.442, p = .002，η^2_p = 0.072）が有意であった。下位検定を行ったところ，不織布製サージカルマスク着用写真では人物の単純主効果が有意であり（F（2.309, 131.590）= 9.909, p < .001，η^2_p = 0.148），多重比較を行ったところ，人物 A よりも人物 B および人物 C の魅力得点の方が高かった（ps < .05）。布製平型マスク着用写真でも人物の単純主効果は有意であり（F（3, 171）= 4.501, p = .005，η^2_p = 0.073），多重比較を行ったところ，人物 B よりも人物 C の魅力得点の方が高かった（p = .001）。ナイロン・ポリウレタン製立体マスク着用写真でも人物の単純主効果は有意であり（F（3, 171）= 5.595, p = .001，η^2_p = 0.089），多重比較を行ったところ, 人物 D よりも人物 C の魅力得点の方が高かった（p = .001）。また，人物 A ではマスクの種類の単純主効果が有意であり（F（2, 114）= 18.867,

Figure 2　マスクの種類ごとの魅力得点（実験 1）



注）エラーバーは標準誤差を示す。
＊ p < .05

Figure 3 不織布製サージカルマスク上部の角度（実験 1）



$p < .001$, $\eta^2_p = 0.249$），多重比較を行ったところ，ナイロン・ポリウレタン製立体マスク，不織布製サージカルマスク，布製平型マスクの順で得点が高かった（$ps < .05$）。人物 B・人物 C・人物 D でもマスクの種類の単純主効果は有意であったが（B: F（1.537, 87.627）= 50.003, $p < .001$, $\eta^2_p = 0.467$; C: F（2, 114）= 47.683, $p < .001$, $\eta^2_p = 0.455$; D: F（2, 114）= 26.116, $p < .001$, $\eta^2_p = 0.314$），多重比較を行ったところ，いずれの人物でもナイロン・ポリウレタン製立体マスクと不織布製サージカルマスクで布製平型マスクよりも得点が高く（$ps < .001$），ナイロン・ポリウレタン製立体マスクと不織布製サージカルマスクの得点の間に差は見られなかった（B: $p = 1.000$; C: $p = 1.000$; D: $p = .960$）。

本実験の結果，すべての人物でマスクの種類により魅力評価が異なることが示された。すなわち，いずれの人物でも布製平型マスクでは不織布性サージカルマスクやナイロン・ポリウレタン製立体マスクよりも魅力得点が低くなることが示された。また，人物 A でのみ，ナイロン・ポリウレタン製立体マスクよりも不織布性サージカルマスクの方が魅力得点の低いことが示された。さらに，人物により魅力評価が異なり，人物 C の魅力得点が他の人物よりも高いことが示された。

サージカルマスクの着用方法　人物 A でのみ，不織布製サージカルマスクとナイロン・ポリウレタン製立体マスクの間でも魅力得点に差が見られた原因を明らかにするために，改めて刺激写真の特徴について確認を行った。各刺激写真を拡大し，マスクと肌の境目に分度器を当てて確認を行ったところ，人物 A と人物 B・C・D とでは不織布製サージカルマスクの着用方法に違いがあり，人物 A ではマスク上部の角度が大きく，他の人物よりも鼻背を大きく露出させた状態となっていたことが確認された（Figure 3）。実験 1 ではこの着用方法の違いが人物 A と人物 B・C・D との結果の違いを生じさせたと考えられる。そこで，実験 2 では実験 1 で使用したものと同一の不織布性サージカルマスクを使用して，その着用方法が魅力評価に及ぼす影響について検討を行う。具体的には，同一の不織布製サージカルマスクを使用しながら着用方法の異なる人物写真を作成し，それらに対する魅力評価の比較を行う。

Figure 4 人物写真の例（実験 2, 人物 E）

実　験　2

方法

参加者　大学生 20 名（男性 9 名，女性 11 名）が参加した。平均年齢は 20.10 歳（$SD = 1.48$）であった。

実施時期　2021 年 11 月―12 月に実施した。

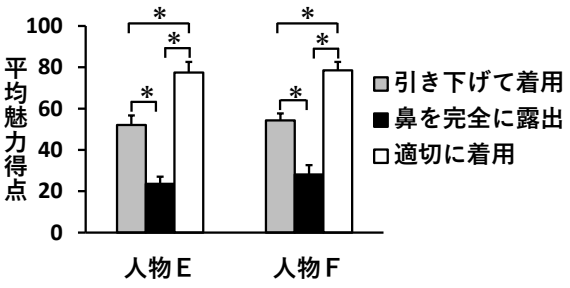
人物写真　2 名の人物（21―22 歳の男女各 1 名）が実験 1 と同様の不織布製サージカルマスクを引き下げて着用して鼻背を露出させた写真，さらに引き下げて鼻を完全に露出させた写真，鼻全体を覆うよう適切に着用した写真の 3 種を撮影して水平に配置した（Figure 4）。いずれの人物も黒髪で，白色無地の襟付シャツを第 1 ボタンのみ外して着用した。背景はすべて白色無地であった。

実験計画　刺激人物（A・B）とマスクの着用方法（引き下げて鼻背が露出するよう着用，さらに引き下げて鼻が完全に露出するよう着用，鼻全体を覆うよう適切に着用）を独立変数とする 2 要因計画であった。独立変数は，いずれも参加者内要因であった。

質問冊子　実験 1 と同様であったが，視覚的アナログスケールを印刷した評定用紙は 2 名分であった。

手続き　実験は個別あるいは 2 名 1 組で実施した。いずれの場合も刺激の呈示にはノート PC（NEC PC-HZ550GAS）の液晶ディスプレイ

Figure 5 マスク着用方法ごとの魅力得点（実験 2）



注）エラーバーは標準誤差を示す。
＊ p < .05

(13.3 インチ)を用い，2 名 1 組の場合は 1 台を共有して同時に実施した。その他は実験 1 と同様であり，刺激呈示順序はすべての参加者で同一であった。

結果と考察

参加者全員を分析対象とした。参加者が最もよく使うマスクとして最も多く選択されたのは不織布製サージカルマスクであり(80%)，次いでナイロン・ポリウレタン製立体マスク(20%)であった。布製平型マスク選択者はいなかった。

人物写真の魅力評価　着用人物および着用方法ごとの魅力得点を Figure 5 に示す。人物および着用方法よって魅力得点に差があるかどうかを二元配置分散分析により検討した（球面性の仮定が成立しない場合は，Greenhouse-Geisser の ε により自由度の修正を行った。また，多重比較には Bonferroni の方法を用いた)。その結果，マスクの着用方法の主効果が有意であり（F（1.527, 29.008）= 58.293, p < .001, η^2_p = 0.754)，多重比較を行ったところ，鼻の露出が大きくなるほど魅力得点が低下することが示された(ps < .001)。また，人物の主効果(F (1, 19) = 1.069, p = .314, η^2_p = 0.053)および人物×マスクの着用方法の交互作用(F（2, 38）= 0.273, p = .763, η^2_p = 0.014)は有意でなかった。

本実験の結果，不織布製サージカルマスクを適切に着用した場合に比べ，引き下げて鼻背を露出させた場合の魅力評価は低くなり，鼻を完全に露出させて着用した場合はさらに低くなることが示された。すなわち，マスクの着用方法によって人物写真の魅力評価が異なることが明らかとなった。

総合考察

本研究の実験 1 では，着用するマスクの種類によって人物写真の魅力評価が異なることが示された。具体的には，不織布製サージカルマスクやナイロン・ポリウレタン製立体マスクに比べ，布製平型マスクを着用した写真の魅力が低く評価されることが明らかとなった。COVID-19 の流行以降，マスクの種類は多様化したが，それらの使用率には大きな偏りがある。プラネット(2020)の調査によれば，2020 年 7 月の時点で，回答者(n = 3574)の 77.5%が不織布製プリーツマスク，25.5%が不織布製立体マスクを使用している。同年はマスクの入手が非常に困難な状況が続いており，次いで使用率が高かったのは手作りマスクであった(18.4%)。しかしながら，そのような状況にあっても日本国政府が各家庭に配布した布製平型マスクの使用率は 3.5%と極めて低かった。本研究においても参加者が普段よく使用しているのは，不織布製サージカルマスクやナイロン・ポリウレタン製立体マスクであった。一方，布製平型マスク使用者は実験 1 でも 5%に過ぎず，実験 2 では 1 名もいなかった。本研究では普段最もよく使用するマスクの選択理由については質問していないが，実験 1 の結果が示すように，着用するマスクの種類による外見的魅力の違いがマスクの種類の選択に影響を及ぼしているのかもしれない。また，本研究では白色のサージカルマスクのみを使用したが，外見的魅力の高い男性が白いマスクを着用した画像の魅力は黒いマスクを着用した画像よりも高く評価されるとする報告もある(伊藤・河原, 2019; 鎌谷他, 2021)。それぞれのマスクの有するどのような特徴が着用者の魅力評価に影響を及ぼすのかについては，さらなる検討が必要である。

また，実験 2 では，不織布製サージカルマスクの着用方法によって人物写真の魅力評価が異なることが示された。具体的には，鼻全体を覆って適切に着用した場合に比べ，マスクを引き下げて鼻背が見えるよう着用した場合の魅力は低く，鼻を完全に露出させた場合にはさらに低く評価されることが明らかとなった。COVID-19 の流行以降，公共の場でのマスク着

用は感染拡大防止のためのルールとして共有されるようになり，マスクを適切な方法で着用することも求められるようになった（たとえば, 厚生労働省, 2021）。本研究の実験 2 で得られた結果も，そのような新しい社会規範に準拠した規範意識や規範行動に合致したマスクの着用方法と，それらから逸脱したマスクの着用方法が対象人物の外見的魅力に影響を及ぼす可能性を示唆するものであるといえよう。

また，実験 2 の結果は実験 1 で得られた，人物 A でのみナイロン・ポリウレタン製立体マスク着用写真よりも不織布製サージカルマスク着用写真の魅力評価の方が低かったという結果とも整合的である。実験 1 における人物 A の不織布製サージカルマスク着用写真は他の刺激人物よりもマスクを引き下げた状態で撮影されており，このことが人物 A における不織布製サージカルマスク着用写真の魅力評価を低めたと考えられる。Zhang et al.（2014）は同一の人物写真を使用して，1 回目は写真のみを呈示しながら，2 回目は写真と共にその人物の内面に関する情報を呈示しながら外見的魅力を評価させた。その結果，2 回目の呈示が honest のような肯定的情報を伴う場合には 1 回目よりも評価が高くなり，evil のような否定的情報を伴う場合には 1 回目よりも評価が低くなることが示された。本研究でも，マスクを引き下げて着用した人物写真では，社会的なルールやマナーを守ろうとしない内面に関する非意識的な推論が魅力評価に影響を及ぼした可能性は否定できない。しかしながら，マスクの着用方法による魅力評価の違いがどのような要因と関連しているのかについては，いまだ不明な点が多い。マスクの着用方法が外見的魅力の評価に及ぼす影響の様相やその機序については，今後より詳細な検討が必要である。

本研究の限界として，実験 1，実験 2 ともに刺激呈示順序がすべての参加者で同一であった点があげられる。今後の検討においては，刺激呈示順序が魅力評価に及ぼす影響の有無についても確認を行うため，刺激呈示順序をランダム化するなどの手続きの改善が必要であろう。

利益相反

本論文に関して，開示すべき利益相反関連事項はない。

注

2　2020 年 4 月 1 日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部の会合において，安倍晋三内閣総理大臣（当時）は一住所あたり 2 枚ずつの布マスク配布を表明した（首相官邸, 2020a）。その後，同年 4 月 7 日の閣議決定を経て（首相官邸, 2020b），同年 4 月 17 日に配布が開始された（日本経済新聞, 2020）。

引用文献

Dudarev, V., Kamatani, M., Miyazaki, Y., Enns, J. T., & Kawahara, J. I. (2022). The attractiveness of masked faces is influenced by race and mask attitudes. *Frontiers in Psychology*, *13*, Article: 864936.

Hies, O., & Lewis, M. B. (2022). Beyond the beauty of occlusion: Medical masks increase facial attractiveness more than other face coverings. *Cognitive Research: Principles and Implications*, *7*, Article: 1.

伊藤資浩・河原純一郎 (2019). 黒色の衛生マスクの着用が印象と魅力の知覚に及ぼす影響　北海道心理学研究, *41*, 1-13.

鎌谷美希・伊藤資浩・宮崎由樹・河原純一郎 (2021). COVID-19 流行が黒色衛生マスク着用者への顕在的・潜在的態度に及ぼす影響　心理学研究, *92*, 350-359.

厚生労働省 (2021, July 9). 正しいマスクのつけ方 [Video]. YouTube. https://www.youtube.com/watch?v=KA0f_QVNPVI

Miyazaki, Y., & Kawahara, J. (2016). The sanitary-mask effect on perceived facial attractiveness. *Japanese Psychological Research*, *58*, 261-272.

日本経済新聞 (2020). 布マスク全世帯配布、17 日開始　官房長官「東京から」 日本経済新聞電子版 4 月 15 日 Retrieved from https://www.nikkei.com/article/DGXMZO58087260V10C20A4PP8000/ (2023 年 7 月 21 日)

Olivera-La Rosa, A., Chuquichambi, E. G., & Ingram, G. P. D. (2020). Keep your (social) distance: Pathogen concerns and social perception in the time of COVID-19. *Personality and Individual Differences*, *166*, 1-7.

プラネット (2020). マスクに関する意識調査 Retrieved from https://www.planet-van.co.jp/pdf/fromplanet/fromplanet_139.pdf (2022 年 8 月 28 日)

首相官邸 (2020a). 新型コロナウイルス感染症対策本部(第 25 回) 議事概要 Retrieved from https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/th_siryou/gaiyou_r020401.

pdf (2023 年 7 月 21 日)
首相官邸 (2020b). 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策――国民の命と生活を守り抜き、経済再生へ―― Retrieved from https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/th_siryou/200407kinkyukeizaitaisaku.pdf (2023 年 7 月 21 日)
首相官邸 (2022). 新型コロナウイルス感染拡大防止へのご協力をお願いします 2022 年版 Retrieved from https://www.kantei.go.jp/jp/content/000098368.pdf (2023 年 5 月 3 日)
Zhang, Y., Kong, F., Zhong, Y., & Kou, H. (2014). Personality manipulations: Do they modulate facial attractiveness ratings? *Personality and Individual Differences*, *70*, 80-84.

本研究では，マスクを着用した人物写真の魅力評価に及ぼすマスクの種類および着用方法の影響を検討した。実験 1 では，着用したマスクの種類の影響を検討した。不織布製サージカルマスク，布製平型マスク，ナイロン・ポリウレタン製立体マスクの 3 種のマスクを着用した 4 名の人物写真について，大学生 63 名が魅力評価を行った。その結果，布製平型マスクでは不織布製サージカルマスクやナイロン・ポリウレタン製立体マスクよりも魅力評価が低くなることが示された。実験 2 では，マスクの着用方法の影響を検討した。2 名の人物が不織布製サージカルマスクを引き下げて着用して鼻背を露出させた写真，さらに引き下げて鼻を完全に露出させた写真，鼻全体を覆って適切に着用した 3 種の写真について，大学生 20 名が魅力評価を行った。その結果，鼻全体を覆って適切に着用した場合に比べ，マスクを引き下げて鼻背が見えるように着用した場合は評価が低くなり，鼻を完全に露出させた場合にはさらに評価が低くなることが明らかとなった。

キーワード：マスクの種類，着用方法，魅力評価，新型コロナウイルス感染症

― 2023. 3. 25 受稿，2023. 9. 24 受理 ―